

中央病院総合移転計画「基本設計ができて、詳細設計を進めます」

京都民医連中央病院リニューアルPJ事務責任者 桜本憲一郎

総合移転に向けて、現在、基本設計を確認し、詳細設計に入る段階となっています。着工は2018年春、竣工は2019年秋の予定です。年内をめどに詳細設計と各申請手続きを行い、来年には建設を行う業者を確定、本体工事の来年度内の着工をめざしています。

京都民医連中央病院総合移転計画経営検討会を3月4日(土)～5日(日)に開催しました。中央病院総合移転計画に関わる医療構想・人員計画・経営計画と京都保健会の経営計画および財務計画の検討を目的に開催しました。全日本民医連経営部から9名、全日本民医連顧問公認会計士2名、近畿地協経営委員会から4名、全国のDPC病院からは大手町病院、埼玉協同病院、城北病院、耳原総合病院から8名、総勢71名の参加でした。検討会では、「現在計画されている地域包括ケア病棟を回復期リハIIに変更することは急性期を支える医療機能の必要性から妥当か」、「日当円7万円はリアリティがないのではないか」、「法人と病院の計画の整合性をはかる必要がある」、「退院出口の確保が必要」、「法人・県連の力を集中しない限り成功しない事業、そのために、県連、法人結集をどう具体化するかが課題」、「医師をはじめとした職員確保、急性期患者確保、資金の集中を」、「民医連内各事業所から中央病院へ月に何人の患者紹介を目標とするか」、「法人は、在宅医療、介護事業を含めた法人全体の事業計画の中に中央病院を位置付ける必要がある」等々、貴重な意見、全国の豊かな経験を交流し、事業計画を進める大きな節目となりました。現在、ひとつひとつの課題について、中央病院、京都保健会、京都民医連が整理しながら、事業計画をさ

らに綿密に進めるための議論と作業を進めています。

「都市計画法による病院敷地周辺の道路付け替え開発工事」と「京都市まちづくり条例」にもとづく地域対応を進めています。まちづくり条例公募について、地域説明会を3月11日(土)に開催しました。地域から約230名の方々が参加、多くのご要望を頂きました。その後、パブリックコメントに寄せられた意見とあわせて検討をおこない、病院として見解書を取りまとめました。京都市により見解書が公開されました。5月24日(水)には再説明会を開催し、地域からは約170名の方が参加されました。救急車搬入路の変更や、立体駐車場の見直し等、可能な限りの検討結果をお伝えすると、「大きな要望を受け入れて頂きありがとうございます」との感謝の言葉もありました。6月からの開発工事についての意見はありませんでした。引き続き、地域のご要望を伺いながら、本体建物や外構の具体化に向けて、自治連合会を窓口にして相談、検討を進めていきます。

イノベーションPJでは、新病院は交通の便が悪いのではないかと意見があり、職員を対象に、昨年12月7～28日に通勤手段のアンケートを行いました(760件回答)。最寄りの公共交通機関からシャトルバスや巡回バスの希望が多く出されました。結果をもとに患者様の通院手段だけでなく、「職員の通勤のしやすさ」の具体化に向けて検討を進めます。売店コンビニについては、みなさんの意見を伺い、交渉に入っています。

災害PJでは、BCP事業継続計画(Business Continuity Plan)の計画、設置を進めています。BCP事業継続計画とは、災害発生時に診療を継続することを目的とした組織体制を含めた計画です。

災害発生時の指揮命令系統の確立、発生時に何を担うか、災害時の人員確保、病院の方針を達成するために各部門はどのタイミングで何をするか、災害本部はどこに設置す

るか、被害想定、被害時の業務マニュアル、事前の災害訓練災害時応急対策業務の想定など、事前に不足がないよう想定と検討を繰り返して計画を作ります。4月には耳原総合病院からお越しいただき、2年間の取り組みについての報告を聞き、イメージを持つことができました。リニューアルPJ会議をベースに具体化を進めます。

今、中央病院の総合移転計画は、重要な局面をむかえています。基本設計(建てる建物を決めるための設計)はこれまでの議論を踏まえて固まりましたが、これから詳細設計(実際に建てるための設計)に入るところです。現在まで議論を積み重ねてきた「与条件(診療規模、入院ベッド、外来診察室、中央診療機能等々)」を組み入れた「標準案」は、面積24782㎡、1床あたり60㎡と他の新築病院と比

